

Point

J R 東海 大阪修繕車両所分会分会情報

No. 104 2011. 04. 21.

発行責任者 坂東 貞男

編集責任者 教 宣 部

ヒューマンエラーゼロには十分な作業時間の確保を！

会社は、昨年度末に昨年の1・29吊架線切断事故の振り返り教育を実施して作業記録・分担表の変更などを説明しました。また、「これだけは忘れない」「無事故の鑑」を更新し、新たに「重要作業ポイント集」を配布しました。

そして、4月1日よりヒューマンエラーゼロを目指すために修繕作業の作業前打ち合わせにおいて、これまで以上に入念な打ち合わせと「重要作業ポイント集」を活用して、作業の関連項目を作業員全員で読み合わせを行うようになり、作業前の打ち合わせにこれまで以上に時間をかけるようになりました。つまり「重要作業ポイント集」を読み合わせることで、作業の要注意点を作業員全員で確認し合って作業ミスをなくしていくといった目的を持ったものだと思います。

従って時間をかけた作業前打ち合わせは重要なことであり、以前のように管理者は口では「余裕を持って作業」と言いながらも実際は運用が迫っているため作業員にプレッシャーをかけることが度々ありましたが、最近では管理者も運用を変更してでも作業時間を確保すると言っており、決して運用などに左右されることなく、十分な作業時間を確保していくことがヒューマンエラーゼロのためには必要です。

不完全な「重要作業ポイント集」では作業ミスは無くならない！？

以上のように「重要作業ポイント集」は、作業ミスをなくすために重要な位置づけを持ったものとなっていますが、内容に間違いや間違いでないにしろ勘違いしやすい内容の部分があります。

例えば1・29吊架線切断事故に関連するパンタグラフ関係の箇所において、コーベルワイヤ取付のポイントとして取付ボルトは新品使用と書かれています。同じページのスリ板取付のポイントでは取付ボルトであるナイロックボルトのナイロン付着の確認はするようになっていますが、新品を使用しなければならないのに新品使用と書かれていません。一方は新品と書かれていることから同じページのもう一方が新品と書かれていないと勘違い・間違いをすることが考えられます。

作業の基本と言える要点を掲載している「重要作業ポイント集」がなぜこのような不完全なものになったのでしょうか、皆さんどう思われますか？

これでは「本当にヒューマンエラーゼロを目指しているのか？」「誰かの点数稼ぎの道具ではないのか？」という声も聞こえてきます。

原因は、明らかです。実際に作業に従事する現場で働くベテラン社員の意見を聞かない、チェック等を依頼していないからだだと思います。

作業は現場で行うものです。現場で日々作業を行うベテラン社員の意見を聞かないでヒューマンエラーゼロなんてありえません。

皆さんどう思いますか、現場の声で働きやすい職場を創りましょう！！